

第2学年英語科学習指導案

日 時：令和3年11月2日 5校時

対象学級：八幡平市立西根中学校 2年3組

指導者：教諭 大森 智 広

1 単元名

PROGRAM 6 Live Life in True Harmony (SUNSHINE ENGLISH COURSE 2, 開隆堂出版)

2 内容のまとめ

第2節「読むこと」の「ウ 社会的な話題」について、簡単な語句や文で書かれた短い文章の要点を捉えることができるようにする。

3 単元の目標

人権問題や差別について書かれた文を読んで、要点を捉えることができる。

「思考力、判断力、表現力等」

4 単元について

(1) 生徒について

新学習指導要領では、「(2)読むこと」の「ウ 社会的な話題について、簡単な語句や文で書かれた短い文章の要点を捉えることができるようにする。」と記されており、これに関してこれまで生徒は、1年次にPROGRAM4「リサイクル活動」についての題材を通して、環境問題の重要性について学んだ。

また、前単元においては、言語材料として「how to~」「look 形容詞」「become 名詞」「show 人+もの」を学び、職場体験についての対話文等の読み取りと、自分たち自身の職場体験学習の様子を簡単な英文でまとめる活動を行った。

毎時間、授業の振り返りを書かせている。多くの生徒が、社会に関する話題に限らず、授業を通して学んだことや、自分で考えたり問題意識をもったことについて細かく記述する習慣を身につけている。

(2) 教材について

本教材は上記の通り、社会的な問題を扱っている。黒人が奴隷として虐げられてきた歴史、現在でも差別は残っており、その問題を解決するために活動したキング牧師やマンデラ氏が紹介されている。そして、歌手であるスティービー・ワンダーがその二人に大いに影響を受け、黒人の地位の向上や差別の撤廃、世界の人々の平等と世界平和への願いなどが彼の歌に反映され、今も世界中の多くの人々に歌われている。

日本に住む私たちは黒人奴隷の歴史にあまり関心をもつ機会が少ない。したがって、この題材を通して人種差別の歴史があった(今もある)ことを認識する機会にしたい。また、数々の名曲を作ってきたスティービー・ワンダーが、黒人であるとともに視覚に障がいがあることにも触れたい。肌の色や民族、身体上の違いなどによって差別されない世界を作っていこうとする心情を育てる題材に適している。

(3) 指導について

言語材料としては受け身の文が中心となる。Scenesの対話や簡単な練習問題で示される例を用いて、「主語+be動詞+動詞の過去分詞」に気づかせる。また、目的・場面・状況を細かく設定して、より主体的に言語活動に取り組ませながら、受け身の文の使い方を習得させたい。

受け身の文を含んだThinkの文の読み取りでは、聞き取って知り得た情報についてメモをとる→新出語句の意味の確認→本文の読みとり→もっと詳しい(表面上ではない行間の)深い読み取り、へと展開していきたい。

また、特に8時間目では、自分の好きな本や絵、マンガ、建物について簡単な語句や文などを用いて話したり、書いたりする活動を行い、受け身を使っての自己表現をさせたい。

主体的・対話的で深い学びの実現に向けた工夫点等としては、「主体的」な活動を促すために、自己表現において目的・場面・状況を設定し、「他の誰のものでもなく、既成のものでもない、オリジナルのものや考え」を大切にさせたい。また、本校の研究テーマにかかわる「対話的」に関しては、「教材との対話」で文章の内容等をじっくりと味わい深い意味をつかんだり、「他者との対話」によって教え合いや、自分の考えを深めたり強化したり、自分とは違う別の考え方に気づいたりする効果をねらっている。また、授業ごとに振り返りの時間を設けて、「自己との対話」を充実させたい。

(4) 本校研究との関わり

ア 主体的に学ぶ生徒の具体の姿

課題解決を意識して進んで教材と向き合い、自ら興味をもってその内容の理解に努めたり、言語活動に積極的に取り組んだりすることができる。

また、習得した知識や技能を使って自己表現したり、社会的課題の解決に向けて、日常生活の場面で自分に何ができるかを考えたり、行動したりすることができる。

イ 対話的な学びの充実について

様々な学習過程の中で、「自ら考える」「他者に伝える」「交流する」「考えを広げる、深める、別の考え方を知る」「自分の考えを再構築する」ことの意義を生徒と共有し、以下の3つの対話の場面を意図的に設定して、深い学びを実現したい。

A【自己との対話】

学習課題の解決につなげるために、既習事項や資料、自分の経験・価値観等を関連づけて、粘り強く考えること。また、自己の学習を振り返り、自分が分かったことや考えたことを整理して自分の言葉でまとめること。

B【教材との対話】

本文や資料の深い読み取りから必要な情報を収集し、課題解決に向けて選択・判断して、分かったことを自分の言葉でまとめること。

C【他者との対話】

教師の発問や本文の記述等から考えたことや、ペアやグループでの意見交換や教え合ったり相互評価等をする中で共有した情報から、課題解決に有効な情報を取捨選択したり、より質の高い価値に気づくこと。また、それを自分の言葉でまとめること。

5 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p><知識> 【受け身】の特徴やきまりに関する事項を理解している。</p> <p><技能> 【言語材料】などを活用して、【歴史上の人物】について【書かれた文等】の内容を読みとる技能を身に付けている。</p>	<p>【あるテーマについての他者の意見を知り、自分の考えを伝える】ために、【歴史上の人物】について【書かれた文等】を読んで、概要や要点を捉えている。</p>	<p>【あるテーマについての他者の意見を知り、自分の考えを伝える】に応じて、【歴史上の人物】について【書かれた文等】を読んで、概要や要点を捉えようとしている。</p>

6 指導と評価の計画（8時間）

時	学 習 活 動	指導上の留意点	評価規準・評価方法
1	<ul style="list-style-type: none"> ・受け身（肯定）などの意味や働きを理解する。【知識】 ・身の回りのものについて、聞き取ったりクイズを出したりする。【技能】 	<ul style="list-style-type: none"> ・be動詞は主語によって変化 ・過去分詞の導入は過去形と区別して 	
2	<ul style="list-style-type: none"> ・byを使った受け身とその疑問文などの意味や働きを理解する。【知識】 ・だれかによってされたものについて、聞き取ったり書いたりする。【技能】 	<ul style="list-style-type: none"> ・be動詞が過去になることで「された」 ・by「～によって」に限定して指導 	
3	<ul style="list-style-type: none"> ・by以外の前置詞を使った受け身の文の意味や働きを理解する。【知識】 ・原料や材料について、聞き取ったり書いたりする。【技能】 	<ul style="list-style-type: none"> ・by以外の前置詞（to,with,fromなど）の導入はその語の概念も一緒に 	
4 6	<ul style="list-style-type: none"> ・スティービー・ワンダーについてほかの人に伝えるために、彼の曲や信念に関する会話文の概要や要点をとらえる。【思考・判断・表現】 	<ul style="list-style-type: none"> ・黒人を取り巻く社会情勢や時代背景、キング牧師とネルソンマンデラ氏についての資料（映像・写真・解説等）提示、スティービー・ワンダーの曲の歌詞についての概要説明、CD試聴など ・スティービー・ワンダーの功績だけでなく、これからの自分たちの役割に目を向けさせたい 	<p>【思考・判断・表現①】 スティービー・ワンダーが自身の曲づくりを通して政治的な問題に取り組んだこと、キング牧師やネルソン・マンデラ氏との関係性、黒人の人権問題や差別のない世界を望んでいることを読みとれたか。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度①】 記述内容を深く読みとろうとしているか。</p>
7	<ul style="list-style-type: none"> ・補助資料等を参考にして、スティービー・ワンダー、キング牧師、ネルソン・マンデラ氏の中から一人を選び、その功績について写真や絵を見て、相手に示しながら概要を話す。【思考・判断・表現】 	<ul style="list-style-type: none"> ・書き出しのヒントを日本語で与える ・なぜその人物を選んだのか、選んだ理由を語らせたい 	
8	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えを相手にわかってもらえるように、みんなに知られている人やもの、イベントについて伝え合う。【思考・判断・表現】 ・友だちに紹介するために、自分の好きな本や絵、マンガ、建物について簡単な語句や文などを用いて話したり、書いたりする。【思考・判断・表現】 	<ul style="list-style-type: none"> ・主に②のDo You Know This?に十分な時間をかけたい ・授業中にShow and Tellの形でグループで発表、後日パフォーマンステストを行う 	
後日	<ul style="list-style-type: none"> ・ペーパーテスト 		

7 本時の指導（6時間目／全8時間）

(1) 目標

スティービー・ワンダーの We can and must live life in true harmony. という言葉のもつ意味について、その当時の世界情勢や時代背景とともに、深く読みとることができる。

(2) 展開

段階	学 習 活 動	指導上の留意点（◇評価）
導入	1 あいさつ	
	2 単語小テスト	・基本語句5語
	3 前時の復習	・前時までの概要の確認
	4 学習課題の提示	<学習の見通し>
10分	<p>【学習課題】 スティービー・ワンダーは、"We can and must live life in true harmony"という言葉にどんな思いを込めたのか。</p>	
		<p>【他者との対話】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・予想させ、内容理解に興味をもたせる。
	5 本文内容の読み取り (1)p74の本文内容を通して聞く。 聞き取ったことを学習シートにメモ。 (2)聞き取れたことをペアで交流する。 (3)新出語句の確認。 (4)本文を読んで、再度学習シートに記入する。 (5)英問英答でやりとりしながら、概要について確認する。	<p><課題を解決するための学習活動></p> <ul style="list-style-type: none"> ・閉本して行う。2回繰り返す。 ・学習シート配付。聞き取りの観点を示す。 <p>・開本して行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・受け身の文に注目させる。
	6 We can and must live life in true harmony.の深い意味を考える。	<p>【教材との対話】 ☆主体的で深い学び</p> <ul style="list-style-type: none"> ・harmonyとは音楽用語でもあるが… ・調和とは？ <p>◇じっくりと自分の考えを書いているか。</p>
33分	7 ペア・グループで、それぞれの考えを伝え合う。	<p>【他者との対話】 ☆主体的で深い学び</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本語で伝え合う。 <p>◇積極的に伝えようとしているか。</p>
	8 本文の音読	・本文が伝える内容の深さや重さを感じながら音読させる。
	9 黒人にとっての奴隷制度や差別、人権のない貧しく苦しい時代に思いをはせ、それらの撤廃に人生をささげた偉人について、考えをまとめる。	<p><学習の振り返り></p> <p>【自己との対話】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ふりかえりシートに記入させる。 ・数名に発表させる。
7分	10 あいさつ	